

人工授精 ～授精適期を見極めよう～

2011.6.11-13 市場学習会 おおいた肉用牛振興協議会

1. 受胎の仕組み

- ・受精部位である卵管上部で排卵後の新鮮な卵子と精子が遭遇することにある
- ・牛の精子は人工授精等で子宮内に注入された場合、早いものは数分以内に卵管上部に到達する
- ・生殖器での精子の受精能力保持時間は20～40時間であり、卵子の方は排卵後数時間に過ぎない

2. 発情見逃しの背景

○ヒト側の問題

- ・牛は発情兆候をちゃんと現しているのに、発情を見つけるべき人が見逃している場合

○ウシ側の問題

- ・発情の兆候が弱い、短い
- ・卵巣の疾患のために、発情そのものが全くない

排卵の障害

獣医師に相談を！！

- 原因：やせすぎ、太りすぎ、ビタミン不足、ストレス等

- 対策：原因の除去、排卵促進剤投与、ホルモン剤活用等

3. 経済的な損失

- ・県の平均分娩間隔416.8日(13.9ヶ月) ※ほぼ全国平均
- ・他県では10日以上短い県もある
- ・母牛の飼料費や減価償却費等で1日1,000円の経費が必要



1発情期(21日間)で▲21,000円

○繁殖経営において最も大切なことは、分娩間隔の短縮に努め、多くの子牛を生産することです。

4. 受精の時期の判断

○スタンディング発情;発情は雄を許容する状態。**嫌がらないでじっと立ったまま、乗駕を許容する状態**

発情発見時刻	種付け時期
夜半～午前 9時以前	同日の午後
午前9時～ 12時	同日夕方～ 翌早朝
午後1時以 後	翌日午前中

牛の発情行動徴候（人工授精）

0

12

18

26

30時間

6～10時間前

早い

可能

適期

可能

遅い

発情前期



- 前発情の兆候
隣牛に寄り添う
他牛に上駕する
他牛上駕をいやがる



粘稠性は少ない
だらりと延びる

発情期



- 発情最盛期の兆候
他牛上駕をいやがらない
十字部をたたくと尾を上げる
頻繁に鳴く



粘稠性があり、量も多い
延びる

発情後期



- 後発情の兆候
上駕を嫌がる
後駆接触をを嫌う



量は少なく、白く粘稠性が増す
切れると玉ができる

排卵

- 排卵後10時間まで受胎することがある